

最高の友情

佐藤リンカーン

僕が日本で経験した長く、そして短い一ヵ月間は、僕たちにとって今までにないすばらしい友情をあたえてくれました。

僕の学校の研修にいった先輩たちの話を聞くと、先輩たちは「ああ、よかったよ！とにかく楽しかった」「口では、説明できないぐらいすばらしい研修だよ」「またいつか研修のみんなと会いたいなあ。」と先輩たちはみんな楽しかったと、うれしかったなど、色々なことを言ってくれました。その話を聞き僕も一度行ってみたいと思い、試験を受けました。年に一度、三年間できる中で僕は、三年目に合格しました。飛び上るほど嬉しかったです。

まんがやアニメ、ドラマ、おばあちゃんの話、インターネットなどで日本のさまざまなことを見ましたが、実際に日本を見るともっとすごい国でした。あこがれの日本に着いた時はとてもうれしかったです。

研修生の中の何人かは、前会ったことはありましたが、名前を覚えていなく、始めはみんな静かにしていて緊張かんがただよっていました。

僕は、本当にこんなので最後にはみんなと友達になっているのだろうか、と少し心配になりました。

そして、開講式、大きなボールを作って遊んでプロジェクトアドベンチャー。気がついた時は、ほとんどみんなの名前を覚え友達になっていました。

僕は、六人のグループで吉田中学校に四日間の体験入学をしました。学校のみんなはとてもあたたかく友達も何人もできました。ここでは、友達とのコミュニケーションが大事なことだと感じました。なぜなら部活をやる時少しまよったからです。そして中学生たちと話すことができたことが嬉しかったです。おわかれの日はとても悲しくて泣いていた子もいました。

ホームステイの僕の新しい家族は竹田さんと言う優しい人でした。妻のゆきこさんに会えなかったことは、ざんねんでした。三日間だけでしたけど日本人の生活が色々わかりました。

京都、神戸、大阪の家族は、日本の芸術や日本人の優しさを見せてくれました。

僕がこの研修で一番好きだとおもったことは友情です。同じ年齢の青年たちとこれだけ長い間いたのは、初めてです。だからこの一ヵ月をふりかえってみると友達と時間はとても貴重な存在でした。

みんなにとって兄弟のように感じ、久しぶりに友達と楽しい時間を過ごすことができました。

十人十色とあるように、友達たちは、みんな一人一人ちがいます。しずかな人、がんばる人、はずかしがりやな人、よくふざける人、いろんな人の中ですごした一ヵ月間は、少し心配でしたが、最高の時でした。

嬉しい時はいっしょに笑ってくれる友がいて、悲しい時は一緒涙を流してくれる友がいました。

言葉で言えば長い一ヵ月、実際体験したら短い一ヵ月でした。

悲しい、辛い、寂しい時はゆっくりすぎ、なぜか楽しい、嬉しい、明るいときは信じられないほど早くすぎていきます。

だからこの一ヵ月は、僕の人生の中で一番早くすぎた日々でした。

夢のような日々もうまくしめようとしています。でもこの三十五人の親友とともに過ごした一ヵ月は、僕にとって一生忘れない思い出です。

そしていつかきっとこの三十六人がまた会えることができることを信じています。

だから最後の言葉は「さよなら」ではなく、「またいつか会おう」とか「元気でいてね」とかもっと前むきな笑顔でこれからの道を歩みたいと思います。

じゃあ、みなさんまたいつかお会い出来ることを楽しみにしています。